

取扱説明書

保証書付

緊急地震速報 受信装置

型番：DM-ER3311J

デジタル
もぐら 3311



緊急地震速報のリーディングカンパニー



株式会社 J コーポレーション

総合窓口 TEL 0742-53-7833

〒631-0011 奈良県奈良市押熊町 557-7-4F

<https://www.jcorp.co.jp> fax 0742-53-7795



緊急地震速報

目次

1	本装置及び取扱説明書の表記について	1
2	付属品とオプション	2
3	名称と機能	3
4	本装置の設置	5
5	アンテナの接続	6
5-1	室内ロッドアンテナを利用する	
5-2	ケーブルテレビを利用する	
5-3	屋外アンテナを利用する	
6	放送局	8
6-1	放送局について	
6-2	放送局を決める	
6-3	放送局の電波強度を確認	
7	外部機器との接続	10
7-1	接続端子台を本装置に装着	
7-2	接続線サイズ	
7-3	平行接続	
7-4	接続端子	
7-5	外部機器からの入力1(最優先)	
7-6	外部機器からの入力2	
7-7	放送設備と接続	
7-8	外部機器と接続	
7-9	デジタルもぐら2台を連動する(多段接続)	
8	各種設定	18
8-1	各種スイッチについて	
8-2	内蔵音源について	
8-3	緊急地震速報の警報音声を設定	
8-4	緊急地震速報の出力時間を設定	
8-5	EWS(避難指示)を受信したときの動作を設定	
8-6	EWS(津波警報)を受信したときの動作を設定	
8-7	EWS(避難指示/津波警報)の警報音声を設定	
8-8	EWS(避難指示/津波警報)の出力時間を設定	
8-9	内蔵音源の出力遅延時間を設定	
8-10	内蔵スピーカーの音量を設定	
8-11	ラジオ放送のライン出力音量を設定	
8-12	メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定	
8-13	緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定	
8-14	EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定	
8-15	ライン入力(A1)の音量を設定	
8-16	ライン入力(A2)の音量を設定	

9	動作確認	28
9-1	ラジオの受信状態を確認	
9-2	ラジオ放送で放送設備の動作を確認	
9-3	メロディ音声で放送設備の動作を確認	
9-4	緊急地震速報の訓練音声で放送設備の動作を確認	
9-5	EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で放送設備の動作を確認	
10	警報動作	34
10-1	緊急地震速報の警報動作	
10-2	EWS(避難指示/津波警報)の警報動作	
10-3	内部動作の優先順位	
11	防災訓練・試験放送(EWS)	35
11-1	緊急地震速報の防災訓練	
11-2	EWS(避難指示/津波警報)の防災訓練	
11-3	ラジオ放送を利用した動作試験	
11-4	メロディ音声を利用した動作試験	
11-5	FMトランスミッターを利用した動作試験(オプション)	
11-6	放送局が実施するEWS(避難指示/津波警報)の試験放送について	
11-7	気象庁訓練報について	
12	定期点検	36
12-1	放送局の電波強度を点検	
12-2	ラジオの受信状態を点検	
12-3	放送設備・外部機器を点検	
13	ブロック図	37
14	製品仕様	38
15	製品寸法図	39
16	Q&A	41

➤保証書

本取扱説明書は本装置の取扱い上の注意、操作方法、製品仕様について説明しています。

本取扱説明書をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。

お読みになった後も、大切に保管してください。

本装置を安全にお使いいただき、人体への危害や財産への損害を未然に防ぐために守っていただきたい事項が、本取扱説明書の「警告」と「注意」に記載されています。

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

本取扱説明書の内容の一部を性能や機能の向上などにより、予告なく変更することがあります。

本取扱説明書の内容を無断で転載、複製することを禁止します。

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例、または規則に従ってください。

本装置に対するお問合せなどがございましたら、弊社までご連絡ください。

ご利用になる前の重要事項

- (1) 緊急地震速報に使用されている NHK 報知音(以下 NHK チャイム音と表記します)を受信しても、必ず本装置が起動することを保証するものではありません。
- (2) EWS(緊急警報放送)の第 1 種開始信号及び第 2 種開始信号を受信しても、必ず本装置が起動することを保証するものではありません。
- (3) 放送局の受信感度により、正常に本装置が起動できない場合があります。
明瞭に受信できるようにアンテナの設置場所や方向を調整してください。
- (4) 本装置は緊急地震速報に使用される NHK チャイム音を検出し起動しますが、NHK チャイム音に酷似した音を受信した場合、誤って本装置が起動する場合があります。
- (5) 本装置は EWS(緊急警報放送)の第 1 種開始信号及び第 2 種開始信号を検出し起動しますが、第 1 種開始信号及び第 2 種開始信号に酷似した音を受信した場合、誤って本装置が起動する場合があります。
- (6) 緊急地震速報及び EWS(緊急警報放送)を受信しても、その発生場所、その他の理由により本装置の起動が地震や津波などの到達に間に合わない場合があります。
- (7) 電源の供給が止まっている場合には本装置は動作しません。
本装置はバックアップ用の電池などは搭載していません。
- (8) 誤作動により生じた全ての損失や損害及び事故などに関しては、責任を負いかねますので予めご了承ください。

※内蔵音源の「緊急地震速報 警報・訓練メッセージの NHK 報知音(チャイム音)」は、NHK に帰属しています。

※内蔵音源の「メロディ音声」及び「EWS(緊急警報放送) 警報・訓練メッセージの警報音」は、弊社に帰属しています。

警 告

誤った取扱いをすると、人が死亡する可能性、または重傷を負う可能性があります。

爆発性のガスがある場所で使用しないでください。

周囲に爆発性のガスがある場所で使用すると、爆発の原因になります。

煙が出る、異臭、または異音がする場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜いてください。

そのまま使用すると、感電・火災・故障・けがの原因になりますので、弊社に修理をご依頼ください。

お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

水が入らないよう、また、濡らさないようご注意ください。

濡らしたまま使用すると、感電・火災・故障・けがの原因になります。

水などが入った場合は、弊社に修理をご依頼ください。

濡れた手で電源コネクタやケーブルにさわらないでください。

濡れた手でさわると、感電の原因になります。

ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に本装置を設置しないでください。

落ちたり、倒れたりすると、感電・火災・故障・けがの原因になります。

本装置のカバーが破損した場合は、弊社に修理をご依頼ください。

規定の AC アダプターを使用してください。

規定の AC アダプター以外を使用すると、感電・火災・故障・けがの原因になります。

隙間などから金属や燃えやすい異物を入れないでください。

隙間などから異物を入れると、感電・火災・故障・けがの原因になります。

異物が入った場合、電源プラグをコンセントから抜き、弊社に修理をご依頼ください。

本装置のカバーやパネルを外さないでください。

内部には電圧の高い部分がありますので、さわると感電の原因になります。

点検、または修理を行う場合は、弊社にご依頼ください。

改造しないでください。

改造すると、感電・火災・故障・けがの原因になります。

改造した場合は修理に応じられないことがあります。

電源コード、接続ケーブルの取扱いについては以下の事項を厳守してください。

電源コード及び接続ケーブルは、束ねない、加工しない、引っ張らない、加熱しない、濡らさない、ねじらないでください。

注 意

誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害が発生する可能性があります。

人命に関わるような外部機器の作動・制御には使用しないでください。

長時間ご使用にならない時は、安全のため、電源プラグをコンセントより抜いてください。

コネクタに規定外の端子を接続したり、電圧を加えたりしないでください。

コネクタに規定外の端子を接続したり、電圧を加えたりすると、感電・火災・故障・けがの原因になることがあります。

本装置の上に物を置かないでください。

上に物を置くと、カバーが内部回路に接触し、感電・火災・故障・けがの原因になることがあります。

故障したまま使用しないでください。

故障したまま使用すると、感電・火災・けがの原因になることがあります。

弊社に修理をご依頼ください。

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。

湿気やほこりの多い場所に置くと、感電・火災・故障・けがの原因になることがあります。

規定の動作範囲内でご使用ください。

動作範囲外で使用すると、故障の原因になることがあります。

使用できる温度範囲及び湿度範囲は製品仕様に明記してあります。

損傷したケーブルやACアダプターを使用しないでください。

損傷した物を使用すると、感電・火災・故障・けがの原因になることがあります。

本装置を輸送する場合は、ご購入時の包装材料か同等以上の包装材料をご使用ください。

輸送中に本装置にかかる振動や衝撃が大きいと、故障や火災の原因になることがあります。

業者に輸送を依頼するときは、包装箱のすべての面に「精密機械在中」などの表示をしてください。

室内でご使用ください。

本装置は防水仕様及び防滴仕様ではありません。

室内でご利用ください。

直射日光の当たる場所は避けてください。

1 本装置及び取扱説明書の表記について

本装置について

緊急地震速報受信装置「DM-ER3311J」は、FM ラジオ放送局からの緊急地震速報及びEWS(緊急警報放送)を受信することで、外部機器を制御し警報をお知らせする装置です。

取扱説明書の表記について

1. 緊急地震速報受信装置「DM-ER3311J」を「**本装置**」と表記
2. FM ラジオ放送局を「**FM 放送局**」と表記
3. 緊急地震速報及びEWS(緊急警報放送)を「**警報**」と表記
4. 警報を受信し本装置が動作することを「**警報動作**」と表記
5. 地震試験・警報試験・ラジオ試験・メロディ試験を「**動作試験**」と表記
6. 警報を受信することが可能な状態で、警報動作・各種設定・動作試験・防災訓練・試験放送(EWS)などにより本装置が動作していない状態を「**待機状態**」と表記
7. EWS(緊急警報放送)を「**EWS(避難指示/津波警報)**」と表記
8. EWS(緊急警報放送)の第1種開始信号を「**EWS(避難指示)**」と表記
9. EWS(緊急警報放送)の第2種開始信号を「**EWS(津波警報)**」と表記

本装置がお知らせする緊急地震速報について

緊急地震速報には、テレビ・ラジオ・スマートフォンなどの電波で受信する緊急地震速報と、インターネットで受信する緊急地震速報があります。

本装置は、ラジオ放送局のFM電波を利用し緊急地震速報を受信します。

電波で受信する緊急地震速報とは

設置場所に「地震が来ることだけ」をお知らせします。

インターネットで受信する緊急地震速報とは

設置場所に「地震が来るまでの具体的な猶予時間と予測震度」をリアルタイムでお知らせします。

EWS(緊急警報放送)とは

EWS(緊急警報放送)とは、人命や財産に重大な影響が予想される場合に、待機状態のテレビやラジオの受信装置を自動で起動するための放送で、1985年9月より運用されています。

EWS(緊急警報放送)の信号には**第1種開始信号**、**第2種開始信号**、**終了信号**があります。

第1種開始信号：「自治体からの避難指示」が発令されたとき放送されます。

第2種開始信号：「津波警報」が発令されたとき放送されます。

終了信号：EWS(緊急警報放送)の第1種開始信号及び第2種開始信号を解除するとき放送されます。

NHK FMでは全国の放送局でEWS(緊急警報放送)を放送していますが、民放FM放送局では放送局によって実施状況が異なるので、各放送局にご確認ください。

試験放送：NHK FMでは1月は4日(午前11時59分から)、2月～12月は毎月1日(午前11時59分から)定期的にEWS(緊急警報放送)の試験放送を行っています。

一部の民放FM放送局でも試験放送を行っています。詳細は各放送局にご確認ください。

EWS(緊急警報放送)の試験放送では終了信号だけが放送されます。

2 付属品とオプション

付属品

- ① AC アダプター ×1 個
- ② 室内ロッドアンテナ ×1 個
- ③ ロッドアンテナ取付金具(木ねじ 2 本付) ×1 個
- ④ アンテナ延長ケーブル(5m) ×1 本
- ⑤ 接続端子台 ×2 個
- ⑥ 取扱説明書(保証書含む) ×1 冊

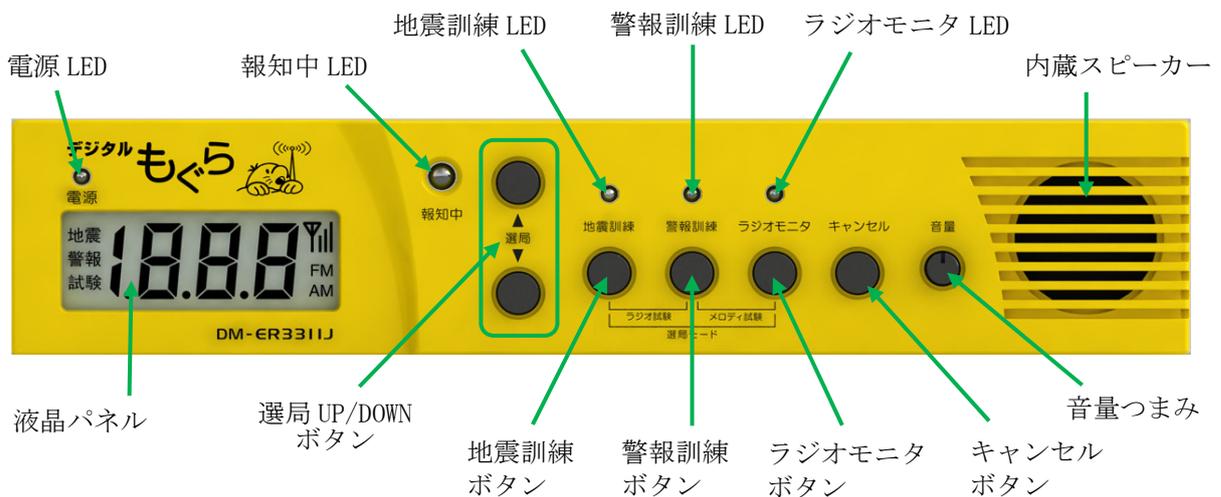
オプション品

ラックマウント

※19 インチ放送ラックに収納する場合に必要となります。

3 名称と機能

【前面】



電源 LED(緑)

本製品に電源が供給されていることを示します。

液晶パネル

- 「地震」表示 : 緊急地震速報の警報動作に移行すると、「地震」と約3日間表示します。「キャンセルボタン」を押すと表示が消えます。
- 「警報」表示 : EWS(避難指示/津波警報)の警報動作に移行すると、「警報」と約3日間表示します。「キャンセルボタン」を押すと表示が消えます。
- 「試験」表示 : 放送局が実施するEWS(避難指示/津波警報)の試験放送を受信すると、「試験」と約3日間表示します。「キャンセルボタン」を押すと表示が消えます。
- 「周波数」表示 : 受信している放送局の周波数を表示します。
- 「電波強度」表示 : 放送局の電波強度を表示します。電波強度に応じてアンテナマークが0本～3本に変化します。

液晶バックライト : ボタン操作中は点灯し、操作を終了すると約60秒で消灯します。
警報動作中は点灯します。

報知中 LED(赤)

緊急地震速報またはEWS(避難指示/津波警報)の警報動作に移行すると点滅します。
接点入力に制御信号の入力があれば点灯します。

地震訓練ボタン

緊急地震速報の動作試験・防災訓練を行います。

地震訓練 LED

緊急地震速報の動作試験・防災訓練中は点灯します。

警報訓練ボタン

EWS(避難指示/津波警報)の動作試験・防災訓練を行います。

警報訓練 LED

EWS(避難指示/津波警報)の動作試験・防災訓練中は点灯します。

ラジオモニタボタン

ラジオ放送を内蔵スピーカーに出力します。ラジオの状態を確認します。

ラジオモニタ LED

ラジオ放送の出力中は点灯します。

選局 UP/DOWN ボタン

ラジオの受信周波数を設定します。

キャンセルボタン

各種操作をキャンセルしたり、動作の停止を行います。

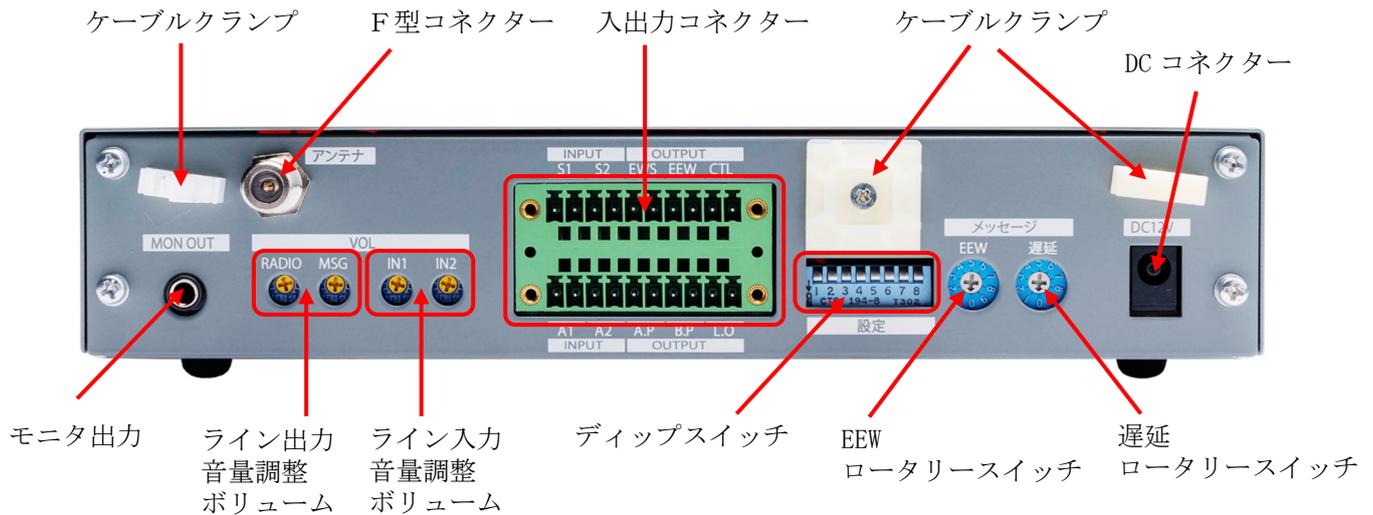
音量つまみ

内蔵スピーカーの音量を設定します。

内蔵スピーカー

ラジオ放送、及び内蔵音源の音声を出力します。

【背面】



ケーブルクランプ

配線が外れないようにケーブルを固定します。

F型コネクター

アンテナケーブルを接続する入力端子です。

入出力コネクター

外部機器を接続する入出力端子です。付属の接続端子台を装着します。

モニタ出力

ラジオ放送及び内蔵音源の音声を出力します。

内蔵スピーカーの音量が不足する場合に、アンプ付きスピーカー等を接続します。

ライン出力音量調整ボリューム

ラジオ放送及び内蔵音源の音声をラインに出力する音量を設定します。

ライン入力音量調整ボリューム

ライン入力の音量を設定します。

ディップスイッチ

緊急地震速報及びEWS(避難指示/津波警報)の警報動作を設定します。

EEW ロータリースイッチ

緊急地震速報の警報音声を設定します。

遅延 ロータリースイッチ

接続する放送設備の起動時間に合わせて、内蔵音源の音声出力の遅延時間を設定します。

DCコネクター

ACアダプターを接続する入力端子です。

4 本装置の設置

本装置は水平な面に設置してください。

接続ケーブルが長いと電磁波の影響による誤作動の可能性があるため、放送設備などの外部機器を接続する場合は、接続する外部機器の近くに本装置を設置することをお勧めします。

※強度の足りない台や、ぐらついたり傾いたりする不安定な場所に設置しないでください。

※本装置の上に物を置かないでください。

※放熱スペースを確保してください。

※風通しの良い空間に設置してください。

19 インチ放送ラックに設置する場合

オプションのラックマウントを使用し 19 インチ放送ラックに設置する場合は、下図のように取付けします。

① ラックマウント 1 台用の場合



② ラックマウント 2 台用の場合



※緊急地震速報は地元民放 FM 局で受信、EWS(避難指示/津波警報)は NHK-FM 局で受信する場合などに本装置を 2 台使用します。

※『7-9 デジタルもぐら 2 台を連動する(多段接続)』を参照

	ラックマウント仕様	
品名	ラックマウント 1 台用	ラックマウント 2 台用
型番	DM-RACK1	DM-RACK2
付属品	本体取付ネジ一式	本体取付ネジ一式

5 アンテナの接続

設置状況及び受信感度に応じて、適切な方法でアンテナを接続してください。

電波が弱い場合にはブースターなどを接続することで、受信感度が高まる場合があります。

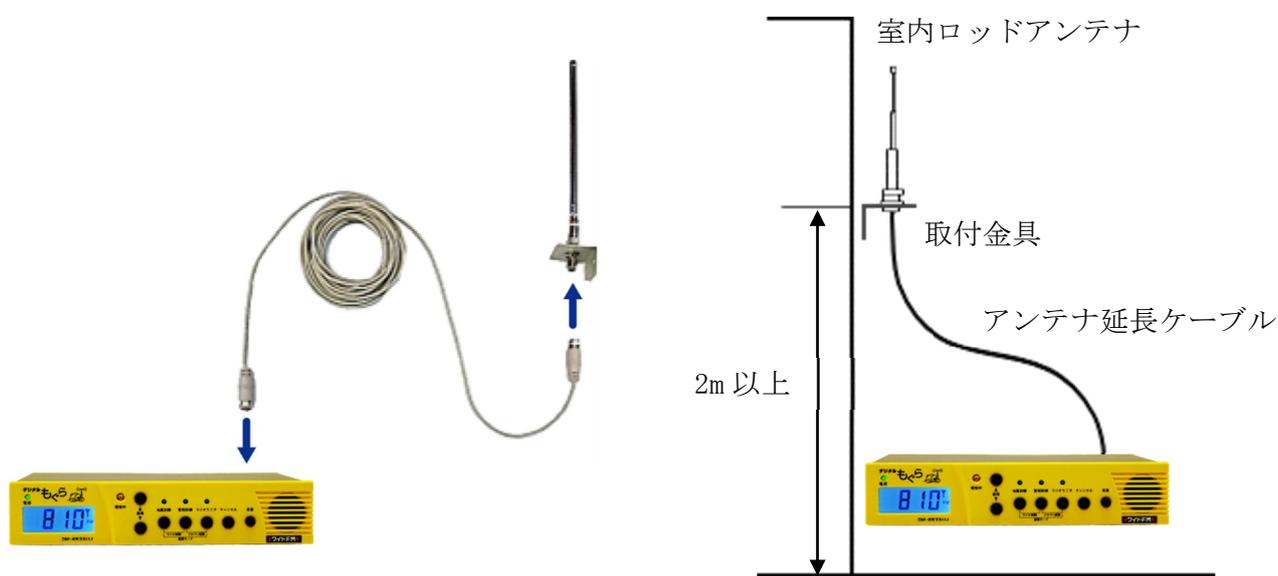
アンテナケーブルを本装置の F 型コネクタに接続するとき、強く締め付けると破損する場合がありますのでご注意ください。

5-1 室内ロッドアンテナを利用する

付属のアンテナ延長ケーブル(5m)を利用し、受信感度が良好な場所に室内ロッドアンテナを設置してください。

受信感度は、ロッドアンテナの微妙な角度で大きく変化します。ラジオ放送が明瞭に聞こえ、雑音が無いようにロッドアンテナの設置位置や角度などを調整してください。

また、ラジオ放送が安定して受信できるように、アンテナの取付位置を床面より 2m 以上の高い場所に設置してください。



注意

本装置に直接ロッドアンテナを取り付けないでください。

ロッドアンテナが動きやすく、受信感度が不安定になります。

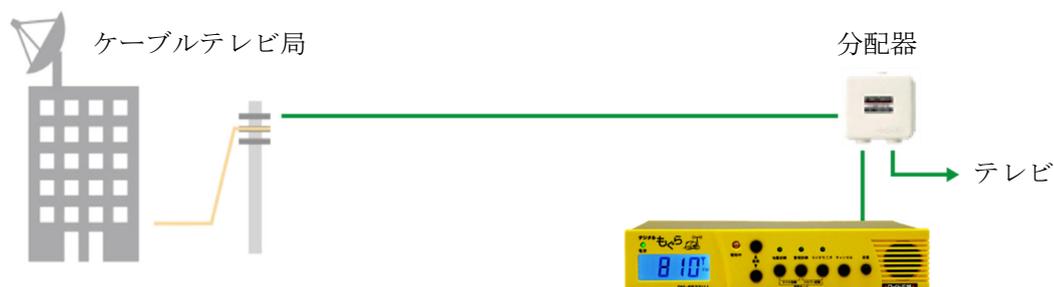
※ケーブルの長さが不足する場合は、必要に応じて同軸ケーブルをご用意ください。

※市販の室内用 FM アンテナも利用できますが、人が移動したときなどに受信感度に変化があるので、アンテナの取付位置を床面より 2m 以上の高い場所に設置してください。

5-2 ケーブルテレビを利用する

ケーブルテレビが FM 放送を実施していれば、分配器を利用しラジオ放送を受信することができます。各ケーブルテレビ局にお問合せください。

ケーブルテレビによる FM 放送は、受信感度が安定しているので安心してご利用になれます。



5-3 屋外アンテナを利用する

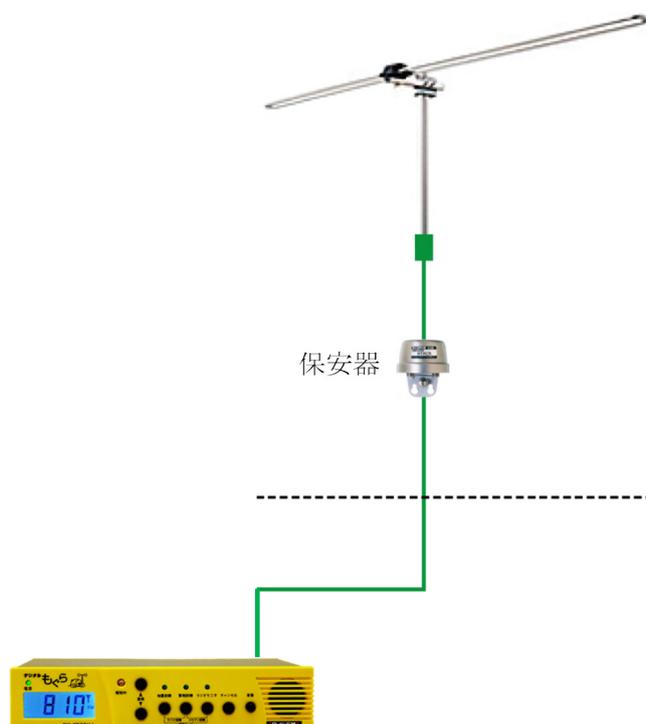
室内で十分な受信感度が得られない場合には、屋外に FM アンテナを設置してください。

ただし、本装置には避雷器が搭載されていないので、保安器などを設置し避雷対策をしてください。

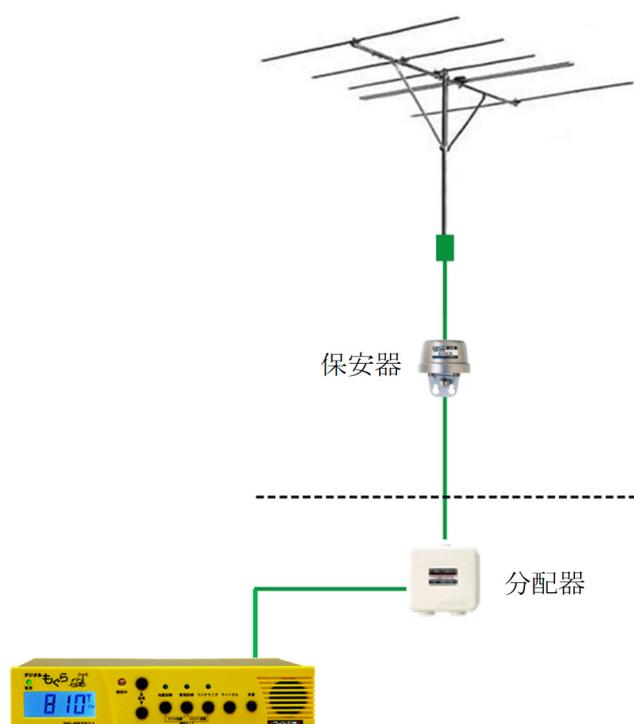
アナログテレビの VHF アンテナが設置されていれば、分配器を利用し FM 電波を受信することができますが、地上波デジタルのテレビアンテナは周波数が違うので使用できません。

電波が弱い場合にはブースターなどを接続することで、受信感度が高まることがあります。

屋外用 FM アンテナ



屋外用 VHF アンテナ



6 放送局

6-1 放送局について

本装置を設置する場所と同じ都道府県内にある FM 放送局を受信してください。

ただし、設置場所と異なる放送局であっても、受信感度が良い放送局で運用することをお勧めします。放送局によって緊急地震速報・EWS(避難指示/津波警報)の実施状況、放送震度基準、放送内容などが異なるので、ご利用形態に応じて放送局を決めてください。

NHK FM 放送局の特徴

実施状況：全都道府県の NHK 放送局で、緊急地震速報・EWS(避難指示/津波警報)を実施。

緊急地震速報の放送震度基準：「予測震度 5 弱以上、あるいは長周期地震動階級 3 以上」を予想した地震で、「予測震度 4 以上、あるいは長周期地震動階級 3 以上」を予想した地域がある場合に放送。

緊急地震速報の放送内容：特定の地域に対して発表された緊急地震速報でも、全都道府県の NHK 放送局で速報として放送。

(例：北海道に対して発表された緊急地震速報は、東京の NHK でも放送される。)

EWS(避難指示/津波警報)の放送内容：特定の地域に対して発表された EWS(避難指示/津波警報)でも、全都道府県の NHK 放送局で速報として放送。

(例：北海道に対して発表された EWS(避難指示/津波警報)は、東京の NHK でも放送される。)

※NHK は放送局の中でもインフラが強固であるため、比較的災害時に強い放送局といえます。

民放 FM 放送局の特徴

実施状況：放送局により実施状況が異なります。

緊急地震速報の放送震度基準：放送局により放送震度基準が異なります。(基準は 2 種類あります。)

(1) 「予測震度 5 弱以上、あるいは長周期地震動階級 3 以上」を予想した地震で、放送エリア内に「予測震度 4 以上、あるいは長周期地震動階級 3 以上」を予想した地域がある場合に放送。

(2) 「予測震度 5 強以上、あるいは長周期地震動階級 3 以上」を予想した地震で、放送エリア内に「予測震度 4 以上、あるいは長周期地震動階級 3 以上」を予想した地域がある場合に放送。

緊急地震速報の放送内容：放送エリア内に対して発表された緊急地震速報だけを放送。

(例：北海道の放送エリアに対して発表された緊急地震速報は、東京の民放では放送されません。)

EWS(避難指示/津波警報)の放送内容：放送エリア内に対して発表された EWS(避難指示/津波警報)だけを放送。

(例：北海道の放送エリアに対して発表された EWS(避難指示/津波警報)は、東京の民放では放送されません。)

※民放は放送局によって緊急地震速報・EWS(避難指示/津波警報)の実施状況、放送震度基準、放送内容が異なるので、各放送局にお問合せください。

放送局の選択例

全都道府県で個別に発表される緊急地震速報を全て受信したい ⇒ NHK FM 放送局

全都道府県で個別に発表される EWS(避難指示/津波警報)を全て受信したい ⇒ NHK FM 放送局

民放の放送エリア内で発表される緊急地震速報だけを受信したい ⇒ 民放 FM 放送局

民放の放送エリア内で発表される EWS(避難指示/津波警報)だけを受信したい ⇒ 民放 FM 放送局

※民放は EWS(避難指示/津波警報)を実施している放送局が少ないので、各放送局にお問合せください。

※FM 補完放送であるワイド FM(AM ラジオの番組を FM 放送で聞く)で、EWS(避難指示/津波警報)を受信できる場合があるので、各放送局にお問合せください。

6-2 放送局を決める

本装置を設置する場所と同じ都道府県内にある FM 放送局を受信してください。

ただし、設置場所と異なる放送局であっても、受信感度が良い放送局で運用することをお勧めします。放送局によって緊急地震速報・EWS(避難指示/津波警報)の実施状況、放送震度基準、放送内容などが異なるので、ご利用形態に応じて放送局を決めてください。

※ラジオ放送が内蔵スピーカーに出力、及びモニタ出力されますが、ラインには出力されません。



(1) 液晶パネルに現在設定されている放送局の周波数が表示されます。(初期設定は 81.0MHz)



(2) 「地震訓練ボタン」と「ラジオモニタボタン」を同時に 2 秒以上押します。
「地震訓練 LED」と「ラジオモニタ LED」が点滅します。



(3) 「選局 UP/DOWN ボタン」で受信する放送局の周波数に設定します。



(4) 再度「地震訓練ボタン」と「ラジオモニタボタン」を同時に押すと(短押し)、周波数を保存し待機状態に戻ります。

(5) 一度 AC アダプターを抜き、数秒してから再び電源を ON にして、液晶パネルに設定した周波数が表示されていることを確認してください。

※設定の途中で「キャンセルボタン」を押す、または 60 秒間操作をしないと待機状態に戻ります。(設定した内容は保存されません)

※設定の途中で警報を受信すると直ちに警報動作に移行しますが、周波数を選局している間は警報動作に移行しません。

6-3 放送局の電波強度を確認



液晶パネルのアンテナマークで電波強度を確認します。

0 本 : 電波なし 1 本 : 弱い 2 本以上 : 良好
▽ ▽ ▽ ~ ▽

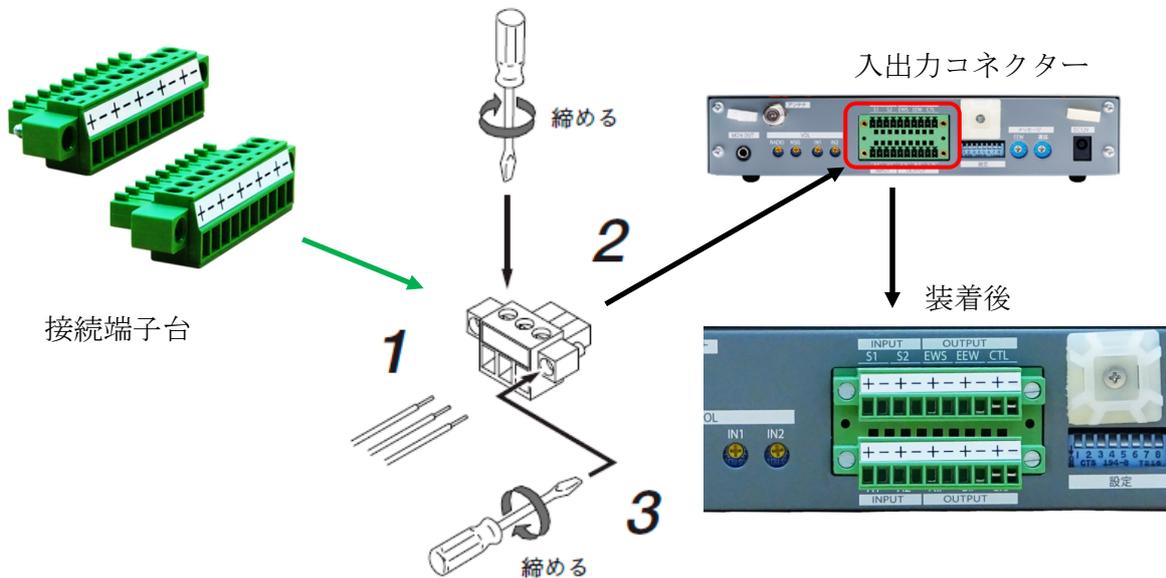
※電波強度が弱くても、ラジオ放送が明瞭に聞こえ、雑音がない状態であればご利用になれます。

※アンテナの接続方法を変更、ブースターの取付、受信する放送局を変更することで電波強度が改善することがあります。

7 外部機器との接続

7-1 接続端子台を本装置に装着

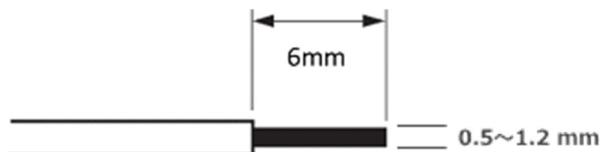
付属の接続端子台を本装置の入出力コネクタに装着します。
左右にあるネジで固定してください。



7-2 接続線サイズ

接続端子台に接続する線材は、直径 0.5~1.2 mm程度(単線・より線)を使用し、細い単線の場合には締め付けによる断線にご注意ください。

むきしろは、先端より 6 mm程度にしてください。



7-3 パラレル接続

複数の外部機器に対してパラレルで接点接続をすると、本装置や外部機器の故障の原因となることがあります。

電流逆流防止用のダイオードなどをご利用ください。

また、接続した外部機器の電圧差が大きいと、本装置や外部機器を壊すリスクがあるので十分にご注意ください。

※複数の外部機器に接続する場合は、接点分配器を利用することをお勧めします。

詳細は弊社までお問合せください。

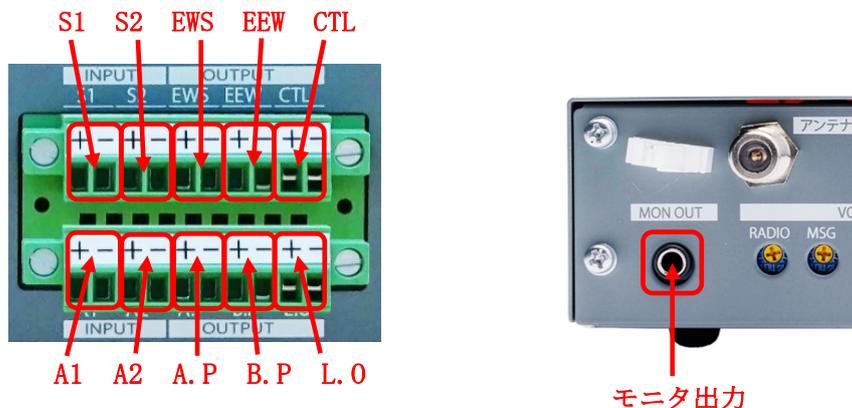
7-4 接続端子

本装置に装着した接続端子台に、放送設備・外部機器などを接続します。

接続線を接続端子台に差し込み、ネジで固定してください。

本装置には保護回路がついていないので、接続する放送設備・外部機器などに接点容量を超えた電圧や電流が流れると故障の原因となります。

本装置の接点容量を超えている場合は、リレー回路などで対応してください。



接点出力 (CTL)

緊急地震速報又は EWS (避難指示/津波警報) の警報動作に移行した場合、及び動作試験・防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力 (接点 ON) します。

出力時間は、緊急地震速報は「ディップスイッチ④」、EWS (避難指示/津波警報) は「ディップスイッチ⑥」で設定した出力時間になります。

※接点入力からの制御信号を出力 (接点 ON) する場合は、この接点出力 (CTL) を利用します。

(接点容量：最大 DC30V/1000mA、AC60V/500mA)

ライン出力 (L.O)

緊急地震速報又は EWS (避難指示/津波警報) の警報動作に移行した場合、及び動作試験・防災訓練などを実施した場合に、音声信号をラインに出力します。端子には極性があるのでご注意ください。

(最大出力レベル：0dBm、出力インピーダンス：220Ω)

接点出力 (EEW) 緊急地震速報のみ出力 (1分 or 3分)

緊急地震速報の警報動作に移行した場合、及び緊急地震速報の防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力 (接点 ON) します。

出力時間は、「ディップスイッチ④」で設定した出力時間 (1分 or 3分) になります。

(接点容量：最大 DC30V/1000mA、AC60V/500mA)

接点出力 (B.P) 緊急地震速報のみ出力 (パルス)

緊急地震速報の警報動作に移行した場合、及び緊急地震速報の防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力 (接点 ON) します。

出力時間は、500msec です。

(接点容量：最大 DC30V/300mA、AC30V/300mA)

接点出力 (EWS) EWS (避難指示/津波警報) (3分 or 終了信号まで)

EWS (避難指示/津波警報) の警報動作に移行した場合、及び EWS (避難指示/津波警報) の防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力 (接点 ON) します。

出力時間は、「ディップスイッチ⑥」で設定した出力時間 (3分 or 終了信号まで) になります。

(接点容量：最大 DC30V/1000mA、AC60V/500mA)

接点出力(A.P) EWS(避難指示/津波警報) (パルス)

EWS(避難指示/津波警報)の警報動作に移行した場合、及び EWS(避難指示/津波警報)の防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力(接点 ON)します。

出力時間は、500msec です。

(接点容量：最大 DC30V/300mA、AC30V/300mA)

接点入力(S1)

最優先で放送したい機器からの制御信号を入力します。

インターネットタイプの緊急地震速報受信装置や震度計との連動に適しています。

本装置の警報動作よりも接点入力(S1)が優先されます。

※本装置の電源が ON・OFF にかかわらず、外部機器からの制御信号があれば、そのまま本装置の接点出力(CTL)に信号が出力されます。

(印加電圧：最大 12VDC、電流：最大 10mA)

ライン入力(A1)

最優先で放送したい機器からの音声信号を入力します。

インターネットタイプの緊急地震速報受信装置との連動に適しています。

本装置の警報動作よりもライン入力(A1)が優先されます。

端子には極性があるのでご注意ください。

※本装置の電源が ON・OFF にかかわらず、外部機器からの音声信号があれば、そのまま本装置のライン出力(L.0)に信号が出力されます。

接点入力(S2)

チャイムなどの外部機器からの制御信号を入力します。

放送設備などの入力端子数に余裕がない場合に使用します。

接点入力(S2)よりも本装置の警報動作が優先されます。

(印加電圧：最大 12VDC、電流：最大 10mA)

※本装置の電源が OFF の場合は、外部機器からの制御信号があっても、本装置からは出力されません。

ライン入力(A2)

チャイムなどの外部機器からの音声信号を入力します。

放送設備などの入力端子数に余裕がない場合に使用します。

ライン入力(A2)よりも本装置の警報動作が優先されます。

端子には極性があるのでご注意ください。

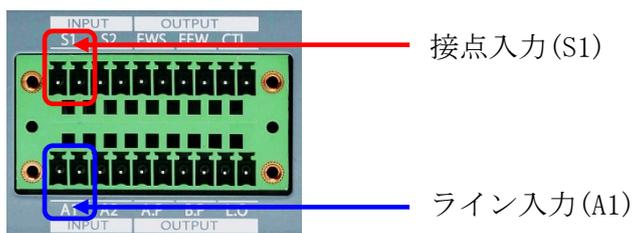
※本装置の電源が OFF の場合は、外部機器からの音声信号があっても、本装置からは出力されません。

モニタ出力

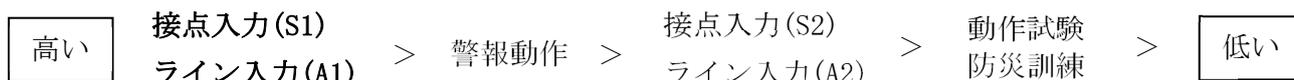
内蔵スピーカーの音量が不足する場合に、アンプ付きスピーカー等を接続します。

7-5 外部機器からの入力1 (最優先)

インターネットタイプの緊急地震速報受信装置や震度計との連動に適しています。
外部機器からの入力信号は、本装置の警報動作よりも優先して放送されます。



優先順位



本装置が警報動作に移行していても、接点入力 (S1) に外部機器からの入力信号があれば、接点出力 (CTL) から制御信号を出力 (接点 ON) します。また、ライン入力 (A1) からの音声信号は、ライン出力 (L. O) に最優先で出力されます。

※放送機器を接点出力 (CTL) 以外の接点出力端子に接続している場合、接点入力 (S1) からの制御信号は出力されません。

※本装置の電源が ON・OFF にかかわらず、接点入力 (S1)、ライン入力 (A1) に接続した外部機器からの入力信号があれば、そのまま本装置の接点出力及びラインに信号が出力されます。

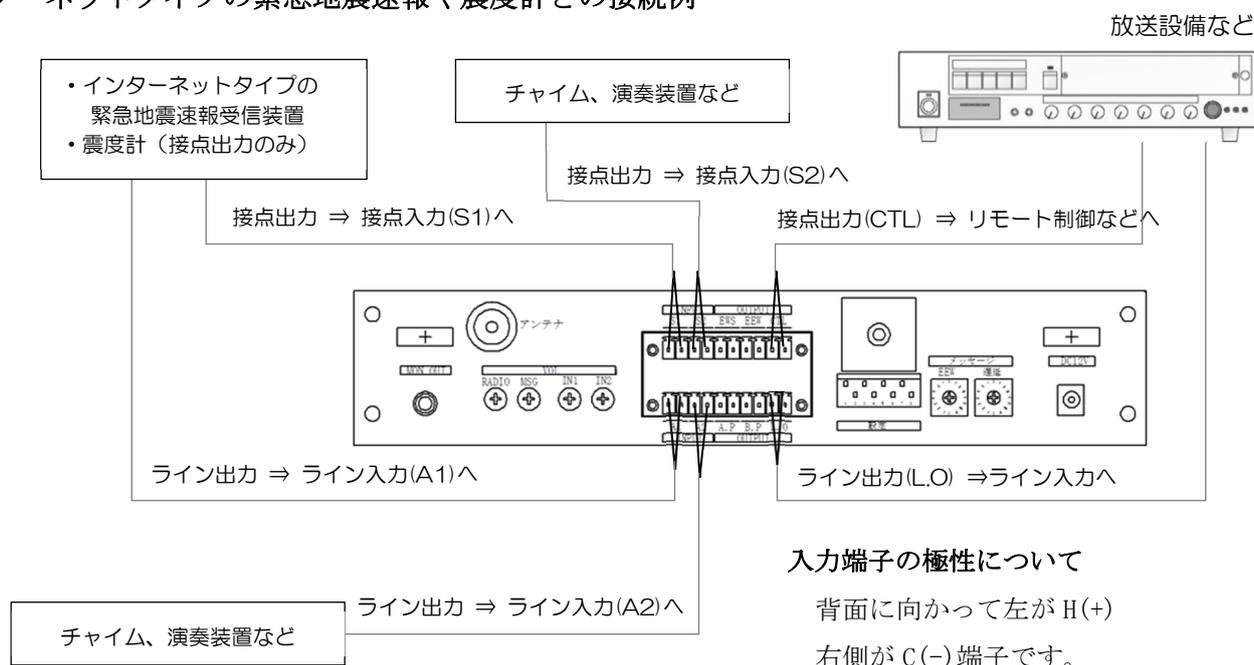
詳しくは『13 ブロック図』を参照

※接点入力 (S1)、ライン入力 (A1) からの入力信号があるときは、本装置のボタン操作はできません。

※本装置で音声出力の遅延時間を設定しても、ライン入力からの音声は遅延しません。

必要に応じて、接続する外部機器の方で音声の遅延設定をしてください。

インターネットタイプの緊急地震速報や震度計との接続例

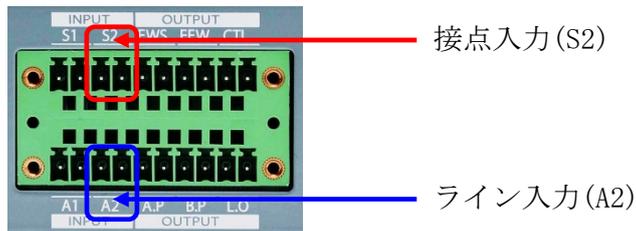


7-6 外部機器からの入力 2

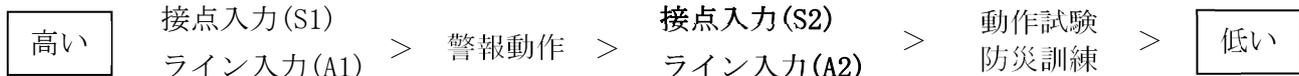
放送設備などの入力端子数に余裕がない場合に利用します。

チャイムなどの外部機器からの入力信号を本装置に入力します。

本装置が警報動作に移行すると、外部機器からの入力信号は遮断されます。



優先順位



接点入力 (S2) に外部機器からの入力信号があれば、接点出力 (CTL) から制御信号を出力 (接点 ON) します。また、ライン入力 (A2) からの音声信号は、ライン出力 (L. O) に出力されます。

※放送機器を接点出力 (CTL) 以外の接点出力端子に接続した場合、または本装置の電源が OFF の場合は、接点入力 (S2)、ライン入力 (A2) からの入力信号は出力されません。

※本装置が警報動作により動作した場合は、接点入力 (S2)、ライン入力 (A2) に接続した外部機器からの入力信号は遮断されます。

※動作試験・防災訓練など (警報動作を除く) を実施しているときに、接点入力 (S2)、ライン入力 (A2) からの入力信号があると、動作試験・防災訓練などは遮断され、入力信号が出力されます。

※接点入力 (S2)、ライン入力 (A2) からの入力信号があるときは、本装置のボタン操作はできません。

※本装置で音声出力の遅延時間を設定しても、ライン入力からの音声は遅延しません。

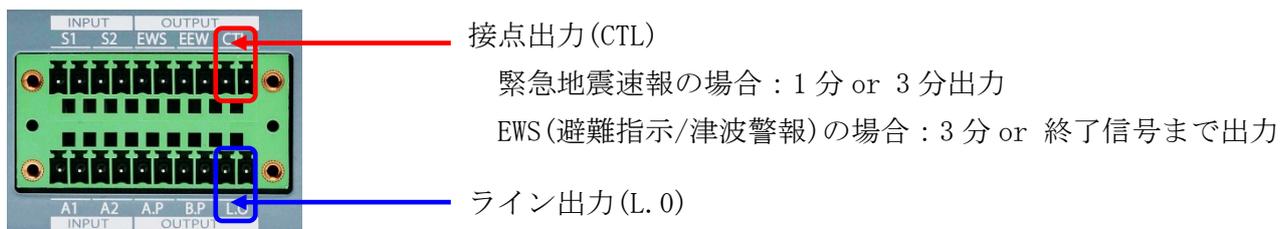
必要に応じて、接続する外部機器の方で音声出力の遅延設定をしてください。

7-7 放送設備と接続

放送設備に制御信号を出力(接点 ON)及び音声信号を出力します。
警報の種類、出力する時間により接続する端子が異なります。
※接続する外部機器(放送設備など)の仕様をよくご確認ください。

① 緊急地震速報、EWS(避難指示/津波警報)どちらの警報も出力

緊急地震速報又は EWS(避難指示/津波警報)の警報動作に移行した場合、及び動作試験・防災訓練などを実施した場合に、制御信号や音声信号を出力します。また、接点入力・ライン入力からの信号があれば出力します。



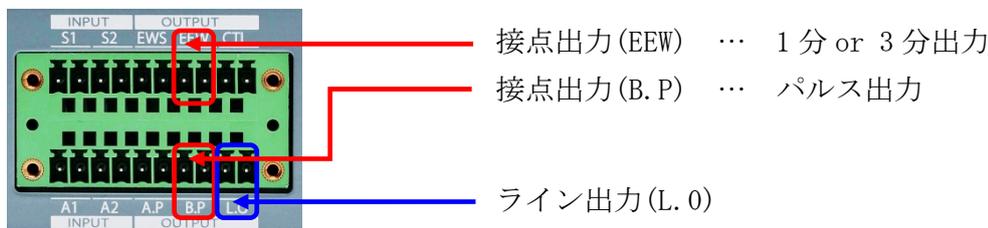
② 緊急地震速報のみ出力

緊急地震速報の警報動作に移行した場合、及び緊急地震速報の防災訓練などを実施した場合に、制御信号や音声信号を出力します。

接点の出力時間が「1分 or 3分」の場合は接点出力(EEW)に、「パルス出力」の場合は接点出力(B.P)に接続します。

音声信号の出力はライン出力(L.0)に接続します。

ラジオ試験、メロディ試験を実施しても出力しません。また、接点入力・ライン入力からの信号も出力しません。



③ EWS(避難指示/津波警報)のみ出力

EWS(避難指示/津波警報)の警報動作に移行した場合、及び EWS(避難指示/津波警報)の防災訓練などを実施した場合に、制御信号や音声信号を出力します。

接点の出力時間が「3分 or 終了信号まで」の場合は接点出力(EWS)に、「パルス出力」の場合は接点出力(A.P)に接続します。

音声信号の出力はライン出力(L.0)に接続します。

ラジオ試験、メロディ試験を実施しても出力しません。また、接点入力・ライン入力からの信号も出力しません。



7-8 外部機器と接続

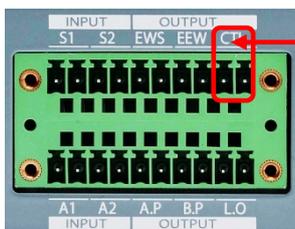
回転灯・電光掲示板・ICレコーダーなどの外部機器に制御信号を出力(接点 ON)します。

警報の種類、出力する時間により接続する端子が異なります。

※接続する外部機器(回転灯など)の仕様をよくご確認ください。

① 緊急地震速報、EWS(避難指示/津波警報) どちらの警報も出力

緊急地震速報又は EWS(避難指示/津波警報)の警報動作に移行した場合、及び動作試験・防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力します。また、接点入力からの信号があれば出力します。



接点出力(CTL)

緊急地震速報の場合：1分 or 3分出力

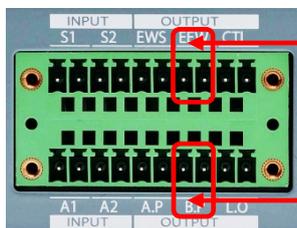
EWS(避難指示/津波警報)の場合：3分 or 終了信号まで出力

② 緊急地震速報のみ出力

緊急地震速報の警報動作に移行した場合、及び緊急地震速報の防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力します。

接点の出力時間が「1分 or 3分」の場合は接点出力(EEW)に、「パルス出力」の場合は接点出力(B.P)に接続します。

ラジオ試験、メロディ試験を実施しても出力しません。また、接点入力からの信号も出力しません。



接点出力(EEW) ... 1分 or 3分出力

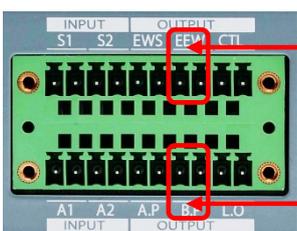
接点出力(B.P) ... パルス出力

③ EWS(避難指示/津波警報)のみ出力

EWS(避難指示/津波警報)の警報動作に移行した場合、及び EWS(避難指示/津波警報)の防災訓練などを実施した場合に、制御信号を出力します。

接点の出力時間が「3分 or 終了信号まで」の場合は接点出力(EWS)に、「パルス出力」の場合は接点出力(A.P)に接続します。

ラジオ試験、メロディ試験を実施しても出力しません。また、接点入力からの信号も出力しません。



接点出力(EWS) ... 3分 or 終了信号まで出力

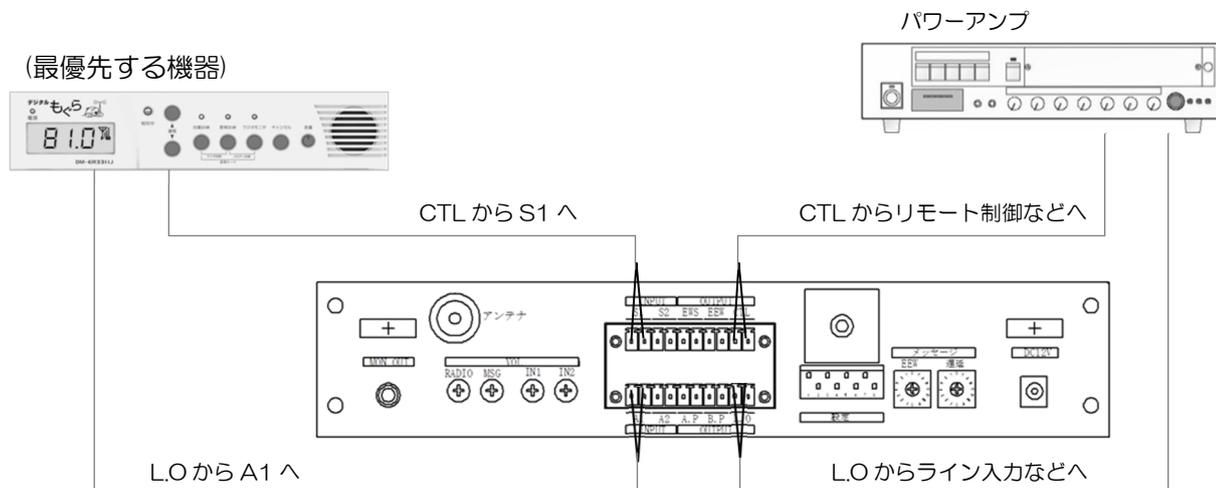
接点出力(A.P) ... パルス出力

7-9 デジタルもぐら 2 台を連動する (多段接続)

1 台目のデジタルもぐらは NHK で EWS (避難指示/津波警報) を受信、2 台目は民放で緊急地震速報を受信などの目的で使用します。優先順位は接続方法により変更できます。

最優先する機器からの出力を、もう一方の機器の接点入力(S1)、ライン入力(A1)に接続します。

※ 『7-5 外部機器からの入力 1 (最優先)』 『7-6 外部機器からの入力 2』 を参照

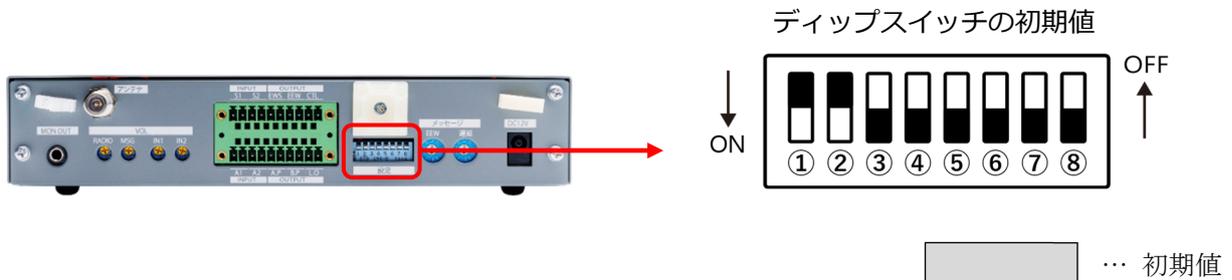


8 各種設定

8-1 各種スイッチについて

ディップスイッチ

ディップスイッチの設定を変更するときは、ACアダプターを抜き、電源をOFFにしてから変更してください。電源がONの状態でも変更しても、反映されません。



スイッチ番号	機能	OFF	ON
ディップスイッチ①	EWS(避難指示)を受信したときの動作	動作しない	警報動作
ディップスイッチ②	EWS(津波警報)を受信したときの動作	動作しない	警報動作
ディップスイッチ③	緊急地震速報を受信したときの動作	動作しない	警報動作
ディップスイッチ④	緊急地震速報の出力時間	3分	1分
ディップスイッチ⑤	EWS(避難指示/津波警報)の警報音声	内蔵音源	ラジオ放送
ディップスイッチ⑥	EWS(避難指示/津波警報)の出力時間	3分	終了信号まで

※「ディップスイッチ⑦、⑧」はメンテナンススイッチです。誤動作防止のため、ONのままご利用ください。

EWS(津波警報)を有効にするには、EWS(避難指示)も有効にする必要があります。

EWS(津波警報)のみを有効にすることはできません。

※津波警報を有効にするには、ディップスイッチ①、②ともにONにしてください。

ディップスイッチ②(津波警報)をONにしても、ディップスイッチ①(避難指示)がOFFになっていると、EWS(避難指示)、及びEWS(津波警報)ともに動作しません。

EEW ロータリースイッチ

緊急地震速報の警報音声を設定します。

ラジオ放送、又は内蔵音源の警報メッセージを選択します。

内蔵音源の警報メッセージは6種類あります。

※警報メッセージの内容は『8-2 内蔵音源について』を参照

※設定方法は『8-3 緊急地震速報の警報音声を設定』を参照



遅延ロータリースイッチ

放送設備の起動遅延により、音声の頭切れが発生する場合は、遅延時間を考慮し音声出力を遅延することができます。

設定した時間だけ遅延して、内蔵スピーカー及びラインに出力されます。

※ラジオ放送、及びライン入力からの音声は遅延しません。

※設定方法は『8-9 内蔵音源の出力遅延時間を設定』を参照



ライン出力及びライン入力音量調整ボリューム

ラインに出力する音量を設定します。

設定した音量は、警報動作、動作試験、防災訓練の音量となります。



初期値(矢印の位置)

RADIO

ラジオ放送を、ラインに出力する音量を設定します。

※設定方法は『8-11 ラジオ放送のライン出力音量を設定』を参照



MSG

内蔵音源を、ラインに出力する音量を設定します。

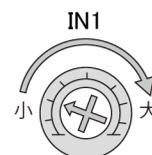
※設定方法は『8-12 メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』を参照



IN1

ライン入力(A1)の音量を設定します。

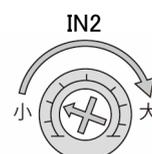
※設定方法は『8-15 ライン入力(A1)の音量を設定』を参照



IN2

ライン入力(A2)の音量を設定します。

※設定方法は『8-16 ライン入力(A2)の音量を設定』を参照



8-2 内蔵音源について

本装置の内蔵音源には6種類の音声メッセージが登録されています。

EEW ロータリースイッチで1～6から任意のメッセージを選択してください。

EEW ロータリースイッチ0を選択すると警報音声はラジオ放送となり、訓練メッセージは内蔵音源を利用します。

内蔵音源は書き換えをすることができます。(オプション)

(1) 緊急地震速報のメッセージ

EEW ロータリースイッチ番号	メッセージ内容	
	0 (初期値)	警報
訓練用		訓練、訓練、♪警報音1♪、これは緊急地震速報の訓練です。緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まるまで安全を確保してください。
1	警報	♪警報音2♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。
	訓練用	訓練放送です。♪警報音2♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。
2	警報	♪警報音2♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まるまで安全を確保してください。
	訓練用	訓練放送です。 ♪警報音2♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まるまで安全を確保してください。
3	警報	♪警報音2♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まったら避難指示にしたがってください。
	訓練用	訓練放送です。 ♪警報音2♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まったら避難指示にしたがってください。
4	警報	♪警報音1♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。
	訓練用	訓練、訓練、♪警報音1♪、これは緊急地震速報の訓練です。緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。
5	警報	♪警報音1♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まるまで安全を確保してください。
	訓練用	訓練、訓練、♪警報音1♪、これは緊急地震速報の訓練です。緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まるまで安全を確保してください。
6	警報	♪警報音1♪緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まったら避難指示にしたがってください。
	訓練用	訓練、訓練、♪警報音1♪、これは緊急地震速報の訓練です。緊急地震速報。強い揺れに警戒してください。揺れが収まったら避難指示にしたがってください。
7	警報	EEW ロータリースイッチ番号0と同じ
	訓練用	EEW ロータリースイッチ番号0と同じ

「♪警報音1♪」はNHK チャイム音を示します。

「♪警報音2♪」はREIC音を示します。

(2) EWS (避難指示/津波警報) のメッセージ

ディップ スイッチ⑤	メッセージ内容	
ON (初期値)	警報	ラジオ放送
	訓練用	訓練放送です。 ♪警報音 3♪緊急警報放送を受信しました。 津波の危険があります。情報を確認し警戒してください。
OFF	警報	♪警報音 3♪緊急警報放送を受信しました。 津波の危険があります。情報を確認し警戒してください。
	訓練用	訓練放送です。 ♪警報音 3♪緊急警報放送を受信しました。 津波の危険があります。情報を確認し警戒してください。

「♪警報音 3♪」は弊社オリジナル音声です。

(3) メロディ音声

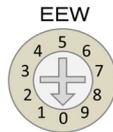
動作確認用のメロディ音声が入蔵されています。

8-3 緊急地震速報の警報音声を設定

EEW ロータリースイッチ

番号 0 ラジオ放送

番号 1~6 内蔵音源の警報メッセージ



警報メッセージの内容は『8-2 内蔵音源について』を参照

※内蔵音源に設定した場合、警報動作に移行すると、ラインには内蔵音源が出力されますが、内蔵スピーカーからはラジオ放送が出力されます。

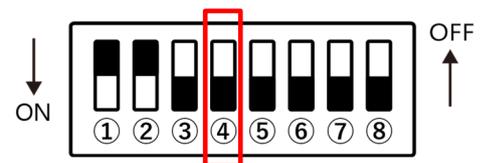
8-4 緊急地震速報の出力時間を設定

ディップスイッチ④

ON 1分

OFF 3分

設定した時間だけ制御信号を出力(接点 ON)及び音声信号を出力します。



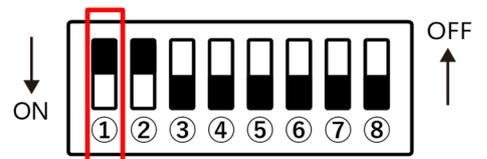
8-5 EWS (避難指示) を受信したときの動作を設定

ディップスイッチ①

ON 警報動作

OFF 動作しない

EWS(避難指示)の警報動作のみを有効にすることができます。



8-6 EWS (津波警報)を受信したときの動作を設定

ディップスイッチ①・②

① : ON ② : ON 警報動作

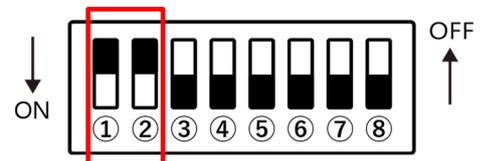
② : OFF 動作しない

EWS (津波警報)を有効にするには、EWS (避難指示)も有効にする必要があります。

EWS (津波警報)の警報動作のみを有効にすることはできません。

※津波警報を有効にするには、ディップスイッチ①、②ともにONにしてください。

ディップスイッチ②(津波警報)をONにしても、ディップスイッチ①(避難指示)がOFFになっていると、EWS (避難指示)、及びEWS (津波警報)ともに動作しません。



8-7 EWS (避難指示/津波警報)の警報音声を設定

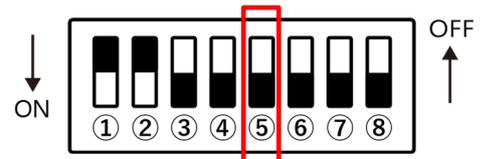
ディップスイッチ⑤

ON ラジオ放送

OFF 内蔵音源の警報メッセージ

警報メッセージの内容は『8-2 内蔵音源について』を参照

※内蔵音源に設定した場合、警報動作に移行すると、ラインには内蔵音源が出力されますが、内蔵スピーカーからはラジオ放送が出力されます。



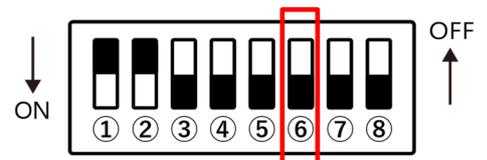
8-8 EWS (避難指示/津波警報)の出力時間を設定

ディップスイッチ⑥

ON 終了信号を受信するまで

OFF 3分

設定した時間だけ制御信号を出力(接点 ON)及び音声信号を出力します。



8-9 内蔵音源の出力遅延時間を設定

放送設備の起動遅延により、音声の頭切れが発生する場合は、遅延時間を考慮し音声出力を遅延することができます。

設定した時間だけ遅延して、内蔵音源が内蔵スピーカー及びラインに出力されます。

※ラジオ放送、及びライン入力からの音声は遅延しません。

遅延ロータリースイッチ

番号 0 遅延無し

番号 1 1秒遅延

番号 2 2秒遅延

⋮

番号 9 9秒遅延



8-10 内蔵スピーカーの音量を設定

内蔵スピーカーの音量を設定します。

設定した音量は、警報動作・動作試験・防災訓練・試験放送(EWS)の内蔵スピーカーの音量となり、背面のモニタ出力の音量にも適用されます。

※ラジオ放送が内蔵スピーカーに出力、及びモニタ出力されますが、ラインには出力されません。

(1) 「ラジオモニタボタン」を2秒以上押します。

「ラジオモニタ LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2) 一旦手を離し、再度「ラジオモニタボタン」を押すと、ラジオ放送が内蔵スピーカーに出力、及びモニタ出力されます。

「ラジオモニタ LED」が点灯に変わります。

警報音声に内蔵音源が設定されていても、ラジオ放送が出力されます。

(3) 正面の「音量つまみ」を回して、本装置の内蔵スピーカーの音量を設定します。



(4) 「キャンセルボタン」を押すと待機状態に戻ります。

※設定の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

8-11 ラジオ放送のライン出力音量を設定

ラジオ放送のライン出力音量を設定します。

※制御信号が出力(接点 ON)され、ラジオ放送がラインに出力されます。

※警報音声にラジオ放送を使用する場合は、必ず設定してください。

(1) 「地震訓練ボタン」と「警報訓練ボタン」を同時に2秒以上押します。

「地震訓練 LED」と「警報訓練 LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2) 一旦手を離し、再度「地震訓練ボタン」と「警報訓練ボタン」を同時に押すと、制御信号が出力(接点 ON)され、ラジオ放送が内蔵スピーカー及びラインに出力されます。

「地震訓練 LED」と「警報訓練 LED」が点灯に変わります。

(3) 背面の「音量調整ボリューム(RADIO)」を回して、ライン出力の音量を設定します。



(4) 「キャンセルボタン」を押すと制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

「ディップスイッチ④・⑥」の警報出力時間が経過しても停止しません。

※設定の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵音源のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-12 メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

※ライン入力音量の設定は以下を参照

『8-15 ライン入力(A1)の音量を設定』

『8-16 ライン入力(A2)の音量を設定』

8-12 メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定

メロディ音声を利用し、内蔵音源のライン出力音量を設定します。

設定した音量は、警報動作・動作試験・防災訓練のライン出力音量となります。

※制御信号が出力(接点 ON)され、メロディ音声が行線に出力されます。

(1)「警報訓練ボタン」と「ラジオモニタボタン」を同時に2秒以上押します。

「警報訓練 LED」と「ラジオモニタ LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2)一旦手を離し、再度「警報訓練ボタン」と「ラジオモニタボタン」を同時に押すと制御信号が出力(接点 ON)され、メロディ音声が行線に出力されます。

「警報訓練 LED」と「ラジオモニタ LED」が点灯に変わります。

(3)背面の「音量調整ボリューム(MSG)」を回して、ライン出力の音量を設定します。



(4)「キャンセルボタン」を押すと、制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

本装置に設定した警報の出力時間が経過しても「キャンセルボタン」を押すまで停止しません。

※設定の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵音源のライン出力音量は、以下の方法でも設定することができます。

『8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

※ラジオ放送のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-11 ラジオ放送のライン出力音量を設定』

※ライン入力音量の設定は以下を参照

『8-15 ライン入力(A1)の音量を設定』

『8-16 ライン入力(A2)の音量を設定』

8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定

緊急地震速報の訓練音声を利用し、内蔵音源のライン出力音量を設定します。
設定した音量は、警報動作・動作試験・防災訓練のライン出力音量となります。
※制御信号が出力(接点 ON)され、訓練音声が行線に出力されます。

(1) 「地震訓練ボタン」を2秒以上押します。

「地震訓練 LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2) 一旦手を離し、再度「地震訓練ボタン」を押すと制御信号が出力(接点 ON)され、「EEW ロータリースイッチ」で設定された緊急地震速報の訓練音声が行線スピーカ及びラインに出力されます。
「地震訓練 LED」が点灯し、液晶パネルに「地震」と表示します。

(3) 背面の「音量調整ボリューム(MSG)」を回して、ライン出力の音量を設定します。



(4) 「キャンセルボタン」を押すか、「ディップスイッチ④」で設定した出力時間が経過すると制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

※設定の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵音源のライン出力音量は、以下の方法でも設定することができます。

『8-12 メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

※ラジオ放送のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-11 ラジオ放送のライン出力音量を設定』

※ライン入力音量の設定は以下を参照

『8-15 ライン入力(A1)の音量を設定』

『8-16 ライン入力(A2)の音量を設定』

8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定

EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声を利用し、内蔵音源のライン出力音量を設定します。

設定した音量は、警報動作・動作試験・防災訓練のライン出力音量となります。

※制御信号が出力(接点 ON)され、訓練音声がラインに出力されます。

(1)「警報訓練ボタン」を2秒以上押します。

「警報訓練 LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2)一旦手を離し、再度「警報訓練ボタン」を押すと制御信号が出力(接点 ON)され、EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声が内蔵スピーカー及びラインに出力されます。

「警報訓練 LED」が点灯し、液晶パネルに「警報」と表示します。

訓練音声

「訓練放送です ♪警報音♪ 緊急警報放送を受信しました 津波の危険があります
情報を確認し警戒してください」

(3)背面の「音量調整ボリューム(MSG)」を回して、ライン出力の音量を設定します。



(4)「キャンセルボタン」を押すか、「ディップスイッチ⑥」で設定した出力時間が経過すると制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

※設定の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵音源のライン出力音量は、以下の方法でも設定することができます。

『8-12 メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

※ラジオ放送のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-11 ラジオ放送のライン出力音量を設定』

※ライン入力音量の設定は以下を参照

『8-15 ライン入力(A1)の音量を設定』

『8-16 ライン入力(A2)の音量を設定』

8-15 ライン入力(A1)の音量を設定

ライン入力(A1)から入力された音声の音量を設定します。

背面の「音量調整ボリューム(IN1)」を回して音量を設定します。



※ライン入力からの音声は、内蔵スピーカーには出力されません。

※本装置の「キャンセルボタン」を押しても、接点入力、ライン入力からの信号は停止できません。

※本装置の電源がOFFの場合は、音量調整は機能しません。ライン入力(A1)の音声を音量調整せずに、そのままラインに出力します。

8-16 ライン入力(A2)の音量を設定

ライン入力(A2)から入力された音声の音量を設定します。

背面の「音量調整ボリューム(IN2)」を回して音量を設定します。



※ライン入力からの音声は、内蔵スピーカーには出力されません。

※本装置の「キャンセルボタン」を押しても、接点入力、ライン入力からの信号は停止できません。

※本装置の電源がOFFの場合は、外部機器からの音声信号があっても、本装置からは出力されません。

9 動作確認

9-1 ラジオの受信状態を確認

ラジオ放送が明瞭に聞こえ、雑音がないことを確認します。

ラジオ放送が内蔵スピーカーに出力、及びモニタ出力されます。ラインには出力されません。

(1) 「ラジオモニタボタン」を2秒以上押します。

「ラジオモニタ LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2) 一旦手を離し、再度「ラジオモニタボタン」を押すと制御信号が出力(接点 ON)され、ラジオ放送が内蔵スピーカーに出力、及びモニタ出力されます。

「ラジオモニタ LED」が点灯に変わります。

(3) 「キャンセルボタン」を押すと待機状態に戻ります。

※操作の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵スピーカー音量の設定は以下を参照

『8-10 内蔵スピーカーの音量を設定』

9-2 ラジオ放送で放送設備の動作を確認

ラジオ放送を利用し、放送設備・外部機器などの動作を確認します。

※制御信号が出力(接点 ON)され、ラジオ放送がラインに出力されます。

(1) 「地震訓練ボタン」と「警報訓練ボタン」を同時に2秒以上押します。

「地震訓練LED」と「警報訓練LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2) 一旦手を離し、再度「地震訓練ボタン」と「警報訓練ボタン」を同時に押すと制御信号が出力(接点 ON)され、ラジオ放送が内蔵スピーカー及びラインに出力されます。

「地震訓練LED」と「警報訓練LED」が点灯に変わります。

(3) 「キャンセルボタン」を押すと、制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

「ディップスイッチ④・⑥」の警報出力時間が経過しても停止しません。

※操作の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵スピーカー音量の設定は以下を参照

『8-10 内蔵スピーカーの音量を設定』

※ラジオ放送のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-11 ラジオ放送のライン出力音量を設定』

※内蔵音源のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-12 メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

9-3 メロディ音声で放送設備の動作を確認

メロディ音声を利用し、放送設備・外部機器などの動作を確認します。

※制御信号が出力(接点 ON)され、メロディ音声ラインに出力されます。

(1) 「警報訓練ボタン」と「ラジオモニタボタン」を同時に2秒以上押します。

「警報訓練LED」と「ラジオモニタLED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2) 一旦手を離し、再度「警報訓練ボタン」と「ラジオモニタボタン」を同時に押すと制御信号が出力(接点 ON)され、メロディ音声内蔵スピーカー及びラインに出力されます。

「警報訓練LED」と「ラジオモニタLED」が点灯に変わります。

(3) 「キャンセルボタン」を押すと、制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

本装置に設定した警報の出力時間が経過しても「キャンセルボタン」を押すまで停止しません。

※操作の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵スピーカー音量の設定は以下を参照

『8-10 内蔵スピーカーの音量を設定』

※ラジオ放送のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-11 ラジオ放送のライン出力音量を設定』

※内蔵音源のライン出力音量の設定は以下を参照

『8-12 メロディ音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

『8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源のライン出力音量を設定』

9-4 緊急地震速報の訓練音声で放送設備の動作を確認

緊急地震速報の訓練音声を利用し、放送設備・外部機器などの動作を確認します。

緊急地震速報の防災訓練としてもご利用いただけます。

※制御信号が出力(接点 ON)され、訓練音声が入線に出力されます。

(1) 「地震訓練ボタン」を2秒以上押します。

「地震訓練 LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2) 一旦手を離し、再度「地震訓練ボタン」を押すと制御信号が出力(接点 ON)され、「EEW ロータリースイッチ」で設定された緊急地震速報の訓練音声が入線に出力されます
「地震訓練 LED」が点灯し、液晶パネルに「地震」と表示します。

(3) 「キャンセルボタン」を押すか、「ディップスイッチ④」で設定した出力時間が経過すると制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

※設定の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵スピーカー音量の設定は以下を参照

『8-10 内蔵スピーカーの音量を設定』

※ラジオ放送の入線出力音量の設定は以下を参照

『8-11 ラジオ放送の入線出力音量を設定』

※内蔵音源の入線出力音量の設定は以下を参照

『8-12 メロディ音声で内蔵音源の入線出力音量を設定』

『8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源の入線出力音量を設定』

『8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源の入線出力音量を設定』

9-5 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で放送設備の動作を確認

EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声を利用し、放送設備・外部機器などの動作を確認します。

EWS(避難指示/津波警報)の防災訓練としてもご利用いただけます。

※制御信号が出力(接点 ON)され、訓練音声が入線に出力されます。

(1)「警報訓練ボタン」を2秒以上押します。

「警報訓練 LED」が点滅します。

操作を中止するには「キャンセルボタン」を押すか、60秒間操作をしないと待機状態に戻ります。



(2)一旦手を離し、再度「警報訓練ボタン」を押すと制御信号が出力(接点 ON)され、EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声が入線スピーカ及び入線に出力されます。

「警報訓練 LED」が点灯し、液晶パネルに「警報」と表示します。

訓練音声

「訓練放送です ♪警報音♪ 緊急警報放送を受信しました 津波の危険があります
情報を確認し警戒してください」

(3)「キャンセルボタン」を押すか、「ディップスイッチ⑥」で設定した出力時間が経過すると制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

※設定の途中で警報を受信すると、直ちに警報動作に移行します。

※内蔵スピーカ音量の設定は以下を参照

『8-10 内蔵スピーカの音量を設定』

※ラジオ放送の入線出力音量の設定は以下を参照

『8-11 ラジオ放送の入線出力音量を設定』

※内蔵音源の入線出力音量の設定は以下を参照

『8-12 メロディ音声で内蔵音源の入線出力音量を設定』

『8-13 緊急地震速報の訓練音声で内蔵音源の入線出力音量を設定』

『8-14 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で内蔵音源の入線出力音量を設定』

10 警報動作

10-1 緊急地震速報の警報動作

- (1) 制御信号が出力(接点 ON)され、報知中 LED(赤)が点滅、LED バックライトが点灯します。
- (2) 「遅延ロータリースイッチ」で設定した時間だけ音声出力を遅延します。
- (3) 「EEW ロータリースイッチ」の設定によりラジオ放送又は内蔵音源の警報メッセージがラインに出力されます。内蔵スピーカーには、設定にかかわらずラジオ放送が出力されます。
- (4) 「キャンセルボタン」を押すか、「ディップスイッチ④」で設定した出力時間が経過すると制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

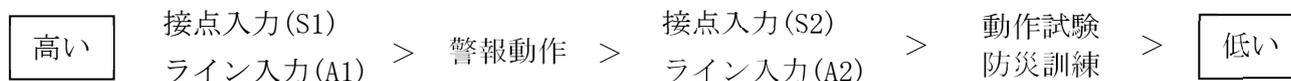
10-2 EWS(避難指示/津波警報)の警報動作

- (1) 制御信号が出力(接点 ON)され、報知中 LED(赤)が点滅、LED バックライトが点灯します。
- (2) 「遅延ロータリースイッチ」で設定した時間だけ音声出力を遅延します。
- (3) 「ディップスイッチ⑤」の設定によりラジオ放送または EWS(避難指示/津波警報)の警報メッセージが出力されます。内蔵スピーカーには、設定にかかわらずラジオ放送が出力されます。
- (4) 「キャンセルボタン」を押すか、「ディップスイッチ⑥」で設定した出力時間が経過すると制御信号を停止(接点 OFF)及び音声出力を停止し、待機状態に戻ります。

10-3 内部動作の優先順位

緊急地震速報と EWS(避難指示/津波警報)の動作優先順位は同レベルですが、後から発生した警報が優先され、その警報動作に移行します。

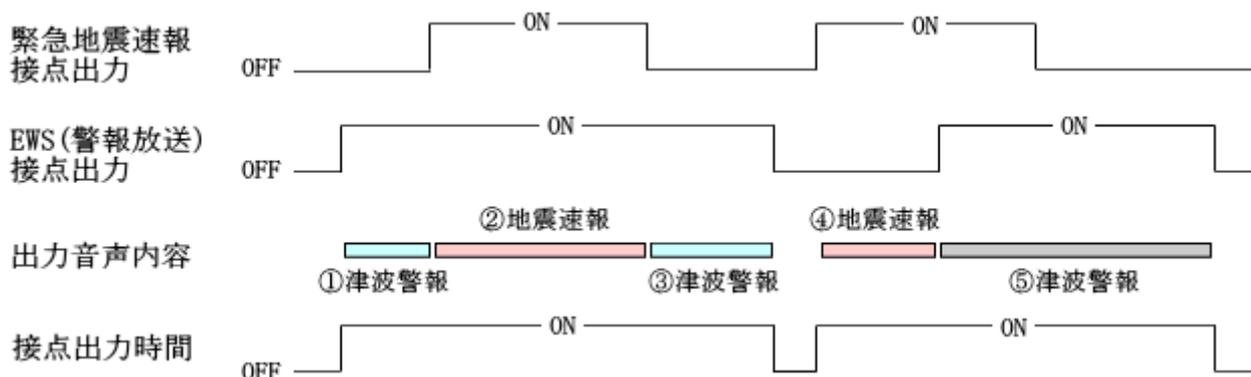
動作優先順位



※動作例：緊急地震速報を「地震速報」、EWS を「津波警報」としてチャート図を参照してください。

①津波警報が出力されているときに緊急地震速報を受信すると、津波警報を中断して②地震速報を出力します。その後、地震速報の出力時間が終了したときに、津波警報の出力時間が残っていれば③津波警報を出力します。

また、④地震速報が出力されているときに津波警報を受信すると、地震速報を中断して⑤津波警報を出力します。



1 1 防災訓練・試験放送(EWS)

11-1 緊急地震速報の防災訓練

緊急地震速報の訓練音声を利用し、防災訓練をすることができます。

操作方法は『9-4 緊急地震速報の訓練音声で放送設備の動作を確認』を参照

11-2 EWS(避難指示/津波警報)の防災訓練

EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声を利用し、防災訓練をすることができます。

操作方法は『9-5 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で放送設備の動作を確認』を参照

11-3 ラジオ放送を利用した動作試験

操作方法は『9-2 ラジオ放送で放送設備の動作を確認』を参照

11-4 メロディ音声を利用した動作試験

操作方法は『9-3 メロディ音声で放送設備の動作を確認』を参照

11-5 FM トランスミッターを利用した動作試験(オプション)

FM トランスミッター(オプション)を利用し、動作試験を行います。

本装置のボタン操作による動作試験ではなく、トランスミッターからの試験電波を本装置が受信することで、本装置及び外部機器などの動作を確認します。

詳細はFM トランスミッターの取扱説明書を参照

11-6 放送局が実施する EWS(避難指示/津波警報)の試験放送について

放送局が実施している EWS(避難指示/津波警報)の試験放送を受信し、本装置が正常に動作すると、約3日間、警報放送 LED(緑)が点滅、及び液晶パネルに「試験」と表示されます。

ただし、制御信号は出力されません(接点 OFF)。音声の出力もありません。

NHK FM 放送局では1月は4日(午前11時59分から)、2月～12月は毎月1日(午前11時59分から)定期的に EWS(避難指示/津波警報)の試験放送を行っています。

一部の民放 FM 放送局でも試験放送を行っていますが、詳細は各放送局にご確認ください。

※EWS(避難指示)または EWS(津波警報)の警報動作が OFF に設定されていても、試験放送を確認することができます。

※試験放送を受信するために本装置の周波数を変更した場合は、必ず元の周波数に戻すようご注意ください。

11-7 気象庁訓練報について

気象庁は毎年「津波防災の日」前後に緊急地震速報の訓練報を実施していますが、本装置は訓練報の対象外となっています。詳細は弊社までお問合せください。

1 2 定期点検

12-1 放送局の電波強度を点検

放送局の電波強度を点検してください。



液晶パネルのアンテナマークで電波強度を確認します。

0本：電波なし 1本：弱い 2本以上：良好



※電波強度が弱くても、ラジオ放送が明瞭に聞こえ、雑音がない状態であればご利用になれます。

※アンテナの接続方法を変更、ブースターの取付、受信する放送局を変更することで電波強度が改善することがあります。

12-2 ラジオの受信状態を点検

ラジオ放送が明瞭に聞こえ、雑音がないことを点検してください。

操作方法は『9-1 ラジオの受信状態を確認』を参照

※アンテナの接続方法を変更、ブースターの取付、受信する放送局を変更することで電波強度が改善することがあります。

12-3 放送設備・外部機器の動作を点検

以下の方法で放送設備・外部機器などの動作を点検してください。

放送設備から訓練用の警報音声などが放送されるので十分にご注意ください。

ラジオ放送を利用する場合

『9-2 ラジオ放送で放送設備の動作を確認』を参照

メロディ音声を利用する場合

『9-3 メロディ音声で放送設備の動作を確認』を参照

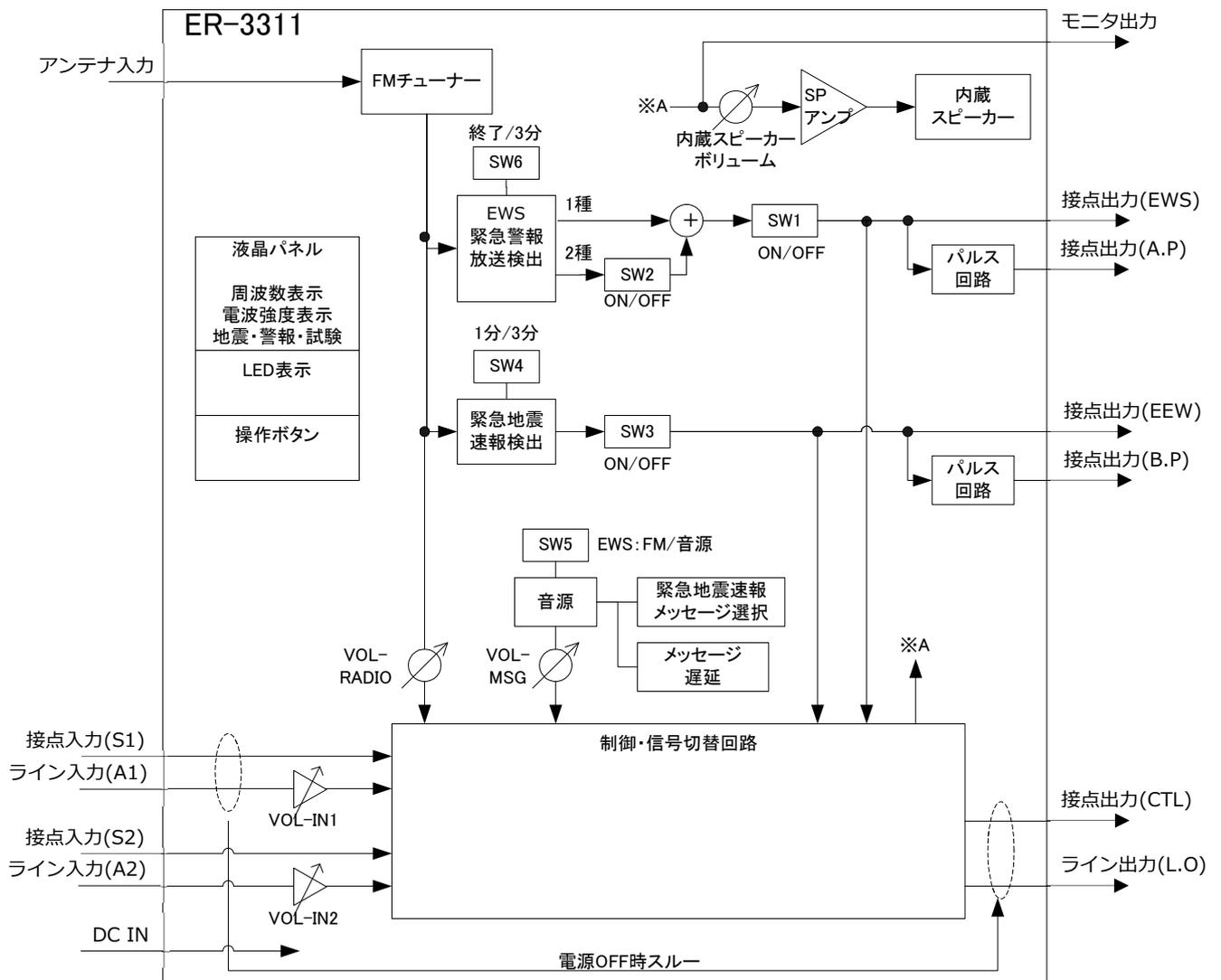
緊急地震速報の訓練音声を利用する場合

『9-4 緊急地震速報の訓練音声で放送設備の動作を確認』を参照

EWS(避難指示/津波警報)を利用する場合

『9-5 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声で放送設備の動作を確認』を参照

13 ブロック図



1 4 製品仕様

項目	仕様
品名	デジタルもぐら 3 3 1 1
型番	DM-ER3311J
受信周波数	76.0MHz~108.0MHz ワイドFM対応
受信感度	30dB μ V以上
アンテナ入力	F型コネクター端子
緊急地震速報	NHKチャイム音の受信で警報動作：ON・OFF設定 制御信号及び音声信号の出力時間：「1分」または「3分」を選択
EWS(避難指示/津波警報)	第1種開始信号の受信で警報動作：ON・OFF設定 第2種開始信号の受信で警報動作：ON・OFF設定 終了信号の受信 試験放送の受信 制御信号及び音声信号の出力時間：「終了信号まで」または「3分」を選択
接点入力	端子形状：ネジ止め式コネクター端子 本装置の入出力コネクターに接続端子台を装着 2系統：接点入力(S1)(S2) 印加電圧：最大DC12V 電流：最大10mA
ライン入力	端子形状：ネジ止め式コネクター端子 本装置の入出力コネクターに接続端子台を装着 2系統：音声入力(A1)(A2) 最大入力レベル：+10dBs 入力インピーダンス：10k Ω アンプゲイン：-20dB~+20dB 調整可能
接点出力	端子形状：ネジ止め式コネクター端子 本装置の入出力コネクターに接続端子台を装着 5系統：接点出力(CTL)(EWS)(EEW)(A.P)(B.P) 無電圧ループ接点出力 接点出力：最大DC30V/1000mA、AC60V/500mA パルス出力：最大DC30V/300mA、AC30V/300mA
ライン出力	端子形状：ネジ止め式コネクター端子 本装置の入出力コネクターに接続端子台を装着 1系統 ライン出力(L.O) 最大出力レベル：0dBm 出力インピーダンス：220 Ω
モニタ出力	端子形状：ステレオミニジャック 内蔵スピーカーの音量が不足する場合に、アンプ付きスピーカー等を接続
内蔵音源	緊急地震速報警報メッセージ：6種類 緊急地震速報訓練メッセージ：6種類 EWS(避難指示/津波警報)警報メッセージ：1種類 EWS(避難指示/津波警報)訓練メッセージ：1種類 メロディ音声：1種類
内蔵音源書換	内蔵音源の書換が可能 (オプション)
音声出力の遅延時間	0秒~約9秒 1秒ステップ
動作試験・防災訓練	緊急地震速報の訓練音声による防災訓練：6種類 EWS(避難指示/津波警報)の訓練音声による防災訓練：1種類 メロディ音声による動作試験 ラジオ放送による動作試験
受信感度表示	アンテナマーク 0本~3本で表示

項目	仕様
緊急地震速報 受信記録	液晶パネルに「地震」と3日間表示 キャンセルボタンを押すと消去
EWS(避難指示/津波警報) 受信記録	液晶パネルに「警報」と3日間表示 キャンセルボタンを押すと消去
EWS(避難指示/津波警報) 試験放送 受信記録	液晶パネルに「試験」と3日間表示 キャンセルボタンを押すと消去
内蔵スピーカー	最大入力 1W 音量調整可能
設置方法	卓上又は19インチ放送ラック収納(オプション)
電源	DC12V ACアダプター使用(入力100V)
消費電力	待機時 3W以下 最大10W
動作環境	温度: 0℃~40℃ 湿度: 20%~80%(結露なき事)
寸法(約)	214mm(幅) × 44mm(高) × 155mm(奥行)
重量(約)	1kg(本体のみ)

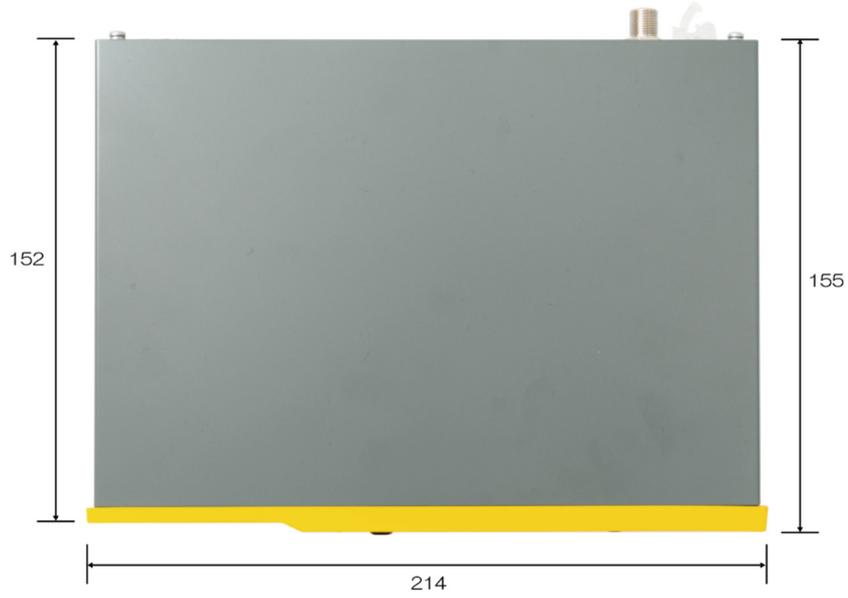
1 5 製品寸法図

(単位：mm)

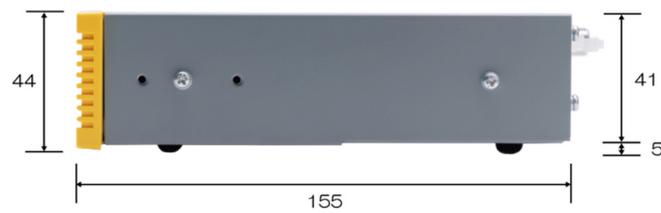
【正面】



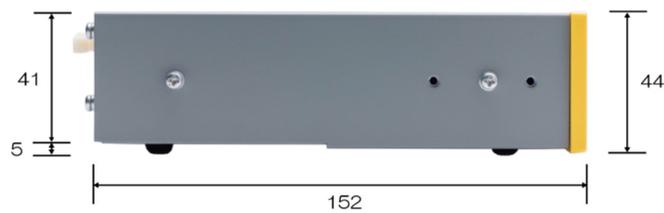
【上面】



【右側面】



【左側面】



16 Q&A

Q: NHK と民放、どちらを受信したほうがいいのですか？

放送局によって緊急地震速報・EWS(避難指示/津波警報)の実施状況、放送震度基準、放送内容などが異なるので、ご利用形態に応じて放送局を決めてください。詳しくは『6 放送局』を参照

Q: 本体を設置する場所と同じ都道府県内にある放送局を選ぶのですか？

設置場所と異なる放送局であっても、受信感度が良い放送局で運用することをお勧めします。

Q: 受信感度が悪い場合の対策は？

屋外にFMアンテナを設置、ブースターの設置、受信する放送局の変更などをご検討ください。ケーブルテレビが敷設されていれば、分配器を利用しFM放送が受信できる場合があります。

Q: テレビアンテナを利用してFM電波を受信できますか？

アナログテレビのVHFアンテナであれば可能ですが、地上波デジタルテレビのアンテナは使えません。

Q: 受信感度が悪い時の、お知らせ機能はありますか？

液晶パネルのアンテナマークで確認できますが、音声によるお知らせ機能はないので、定期的な点検をお願いいたします。詳しくは『12 定期点検』を参照

Q: 津波警報を受信できますか？

受信できますが、放送局によって実施状況や放送内容などが異なります。詳しくは『6 放送局』を参照。

Q: 警報動作中に、外部機器の動作を中止することができますか？

外部機器との接続状況によって、中止できる場合とできない場合があります。詳細は弊社までお問合せください。

Q: 地震が来るまでの猶予時間や震度は放送されますか？

震度や猶予時間はお知らせしません。設置場所に地震が来ることだけをお知らせします。

Q: 震源地や地震警報の対象地域は放送されますか？

警報音声の設定をラジオ放送すれば、震源地及び地震警報の対象地域などがラジオで放送されます。警報音声を内蔵音源に設定すると、本装置に登録されている固定メッセージが放送されます。

Q: 警報放送が終了した後も、被災情報などを取得するために、ラジオ放送を流し続けることはできますか？

特注対応にて、ラジオ放送を継続して流すことができます。詳細は弊社までお問合せください。

Q: 緊急地震速報や津波警報の受信履歴はありますか？

液晶パネルに警報を受信したことを表示します。詳しくは『3 名称と機能』を参照

Q: ボタン操作ができないのですが

接点入力及びライン入力からの入力信号があるときは、ボタン操作ができなくなります。入力信号を停止してから、ボタンを操作してください。

Q: 気象庁が実施する緊急地震速報の訓練報を受けることができますか？ キャンセル報は？

本装置は一般向け緊急地震速報の受信装置なので、訓練報及びキャンセル報の対象外となっています。

Q: Jアラートを受信できますか？ 防災無線を受信できますか？

Jアラート及び防災無線は受信できません。

Q: 放送設備のスピーカーからノイズ音があります。対策はありますか？

本装置のライン出力端子の(+ -)のチェック及びライン出力の音量の調整、放送設備のライン出力音量の調整などを行ってみてください。

Q: 放送設備のスピーカーの音量が小さいときは？

本装置のライン出力の音量及びアンプ側の出力音量を調整してください。それでも改善しないときは、特注対応にて、本装置のライン出力音量を変更することができます。

Q: 放送設備と回転灯、その他外部機器など複数の接点が必要なときは？

接点分配器をご利用ください。詳細は弊社までお問合せください。

Q: 電池で運用できますか？

電池では稼働しません。非常電源であればUPS(無停電電源装置)をご利用ください。

Q: 何年使えますか？

想定安全使用年数を5年間とさせていただきます。

保証書

保証規定

正常な使用状態で故障及び損傷した場合には、保証規定に基づいて無償修理または弊社の判断により同等品へ交換いたします。

保証期間内に故障が発生した場合には、本保証書をご提示の上、弊社または販売会社に修理をご依頼ください。

出張による修理は行っておりません。修理はセンドバック方式です。

修理を依頼するときの脱着作業費、送料、それに伴う諸経費などはお客様のご負担となります。

保証の対象となるのは本装置の本体部分のみとなります。

付属品や本装置に保存されたデータなどは保証の対象とはなりません。

本装置の使用中に生じた火災・けが・事故・経済的損害など、すべての損害について弊社及び販売会社は一切その責任を負いません。

本装置の不具合及び修理などで本装置が使用できない期間に発生したすべての損害について、弊社及び販売会社は一切その責任を負いません。

次のような場合には保証期間内でも保証の対象外となります。

- 物理的な破損などが見受けられる場合。
- 取扱説明書とは異なる方法での使用及び改造や修理による故障及び損傷。
- 取扱説明書に記載されている注意・警告事項などの不徹底により発生した故障及び損傷。
- 使用により生じた傷や塗装の変化、有寿命部品の自然消耗・摩耗・劣化などによる故障及び損傷。
- お買いあげ後の輸送、移動、落下、衝撃などによる故障及び損傷。
- 本装置と接続した外部機器が原因で生じた故障及び損傷。
- 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、風水害、その他の天災地変、あるいは異常電圧など外部要因に起因する故障及び損傷。
- 戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議、その他不可抗力の事由により生じた故障及び損傷。
- 弊社の都合以外の理由により、保証書に記載された内容を利用者もしくは第三者が改めた場合。

本装置の仕様及び外観などを改良等により予告なく変更する場合があります。

保証規定は日本国内で購入し、日本国内で使用している場合のみ有効なものとします。

本保証書は本保証書に記載された内容により、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

本保証書はいかなる場合においても再発行しないので、紛失しないように大切に保管してください。

品名：デジタルもぐら 3311

型番：DM-ER3311J

製造番号： —

保証期間： 年 月末日まで

お客様名（お名前・お電話・ご住所）

販売会社（お名前・お電話・ご住所）

緊急地震速報のリーディングカンパニー



株式会社 J コーポレーション

総合窓口 TEL 0742-53-7833

〒631-0011 奈良県奈良市押熊町 557-7-4F

<https://www.jcorp.co.jp> fax 0742-53-7795

